

経営比較分析表

大阪府 熊取町

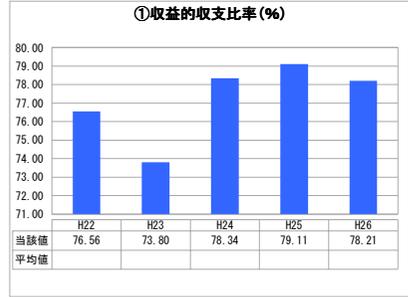
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bc2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	76.94	84.53

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,338	17.24	2,571.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
34,071	5.56	6,127.88

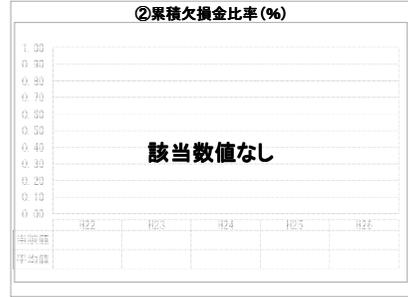
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

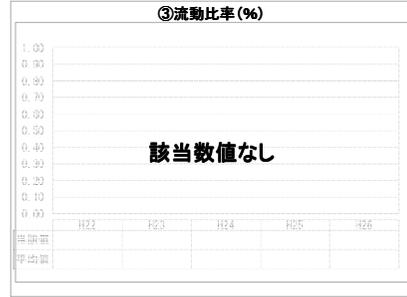
1. 経営の健全性・効率性



「単年度の収支」



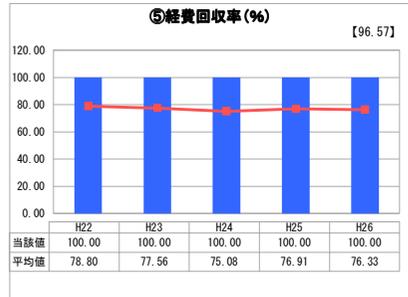
「累積欠損」



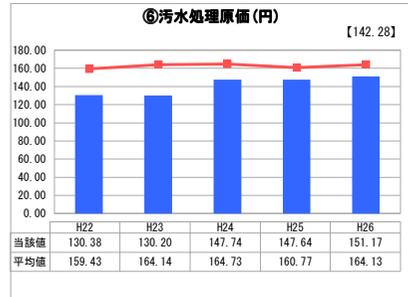
「支払能力」



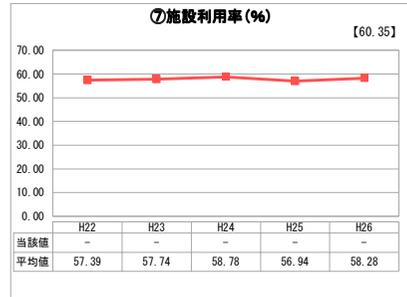
「債務残高」



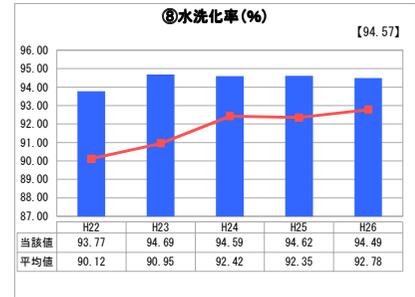
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

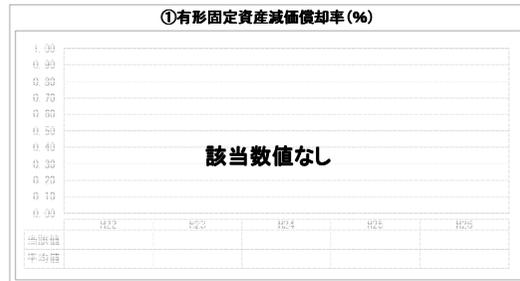


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

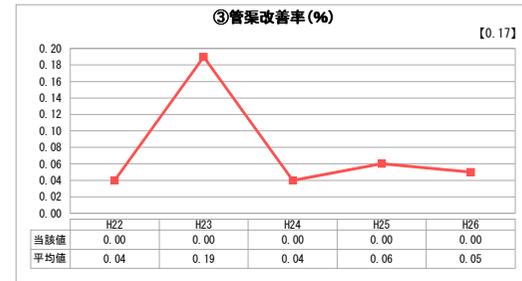
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は80%弱で推移しており、単年度赤字となっている。また、汚水処理原価は、近年の動力費の高騰により増加傾向であり、本町と同規模程度の類似団体の平均よりは安い、全国平均よりは高額となっている。

要因としては、計画的な企業債償還ではあるが、反面、新規資本的投資の減少も大きい。経費回収率はこの数年100%を維持し、水洗化率も94.5%前後で推移しており、同規模程度の類似団体および全国平均を上回っている状況である。

以上のことから、全国平均と比較しても、債務残高、経費回収率については経営健全性・効率性の面で改善の成果が見られる。

2. 老朽化の状況について

公共下水道設備が比較的新しいため、50年の耐用年数を経過した管路は少ない。現在は事故の未然防止を目的としたマンホールのふたの取替えや、地下水の流入が明らかな管渠の修繕的な更新のみとなっているため、改善率は数字上表れていない状況である。

全体総括

全国平均と比較した場合、経営の健全性・効率性の面で著しく劣っているという訳ではないが、収益的収支比率は単年度赤字であり、汚水処理原価も全国平均との比較では高額である。

今後も、汚水処理費の削減と適正な使用料体系の維持に努めるとともに、現在まだ残っている未整備地区について、計画的な管渠整備を行い、使用料収入源の確保に努めていく。

なお、水洗化率の維持及び更なる向上が、使用料収入の増加につながることから、今後も下水道接続への啓発活動も併せて続けていく。

また、継続可能な下水道事業として、財政、整備、維持管理、施設更新について中期的な視点にたった、計画の策定を検討する時期となっている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。